



# 個室ユニット型施設 推進協ニュース

2021年  
(令和3年) 11月号  
NO. 171

【発行】一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会  
〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町 171-1  
TEL: 045-921-0462 / FAX: 045-921-0472  
MAIL: info@suishinkyo.net

- 第4回理事会 <1面>
- 第1回キャプション評価大会 <2面>
- タウンミーティング <1面>
- 第2回実地研修施設勉強会 <2面>
- 事務局から <2面>

## 新たに実務者研修事業開催

### ハイスペックな人材と施設の実現へ

#### 第4回理事会(オンライン会議)

全国個室ユニット型施設推進協議会(推進協、赤枝眞紀子会長)は10月27日、2021年度第4回理事会をオンライン会議で開き、ケアの質向上を目指す新規事業として、実務者研修事業を来年度以降に開催することを了承した。この事業に先立ち介護福祉士実習指導者や実務者研修、医療的ケアの教員を養成する講習会を今年度から始める。さらに、ユニット型施設のケアの質向上や組織活性化などのため、現場の専門職種による優良事例を募集することを決めた。

理事会ではこのほか、新型コロナウイルス感染症の影響により来年度の全国大会(奈良大会)の中止を決めた。また、4月1日から8月末までに開催したタウンミーティングやユニットケア研修事業などの事業報告、中間決算報告も行われ、いずれも了承した。議案、報告事項の概要は次の通り。

#### 第1号議案「奈良大会中止」

今年開催の予定が1年延期されていた全国大会(奈良大会)は、コロナ禍により安心安全な開催が依然として見通せないことから中止する。毎年度開催していた全国大会については、当面は今後の予定を立てずにコロナ禍が落ち着いてから改めて検討する。奈良大会担当の田伏清副会長は「開催した場合の協賛や参加者数を考えると資金的にも厳しい。地元の協議では、中止してコロナ収束の見通しが立ってから再検討したいという結論になった」と説明した。

#### 第2号議案「新規事業」

##### ケアの質向上のため 資格修得指導者を養成

全国の最近の介護職員数の増加

傾向(単年度平均約9万人増)と、介護福祉士合格者(毎年約4万人)の需給ギャップを埋める事業として来年度9月以降、実務者研修事業をまず神奈川県と地方1県で実施する。ニーズが高ければ順次、地方開催を増やす。その講師を養成するため、「介護福祉士実習指導者(来年1月)」「実務者研修教員(同3月)」「医療的ケア教員(詳細検討中)」の3つの講習会をそれぞれ実施する。

この事業について説明した推進協の懸上忠事務局長は「実務者研修事業の先生を養成する講習会は年明けから始めたい。こうした指導者がいるハイスペックな施設を実現するためにも是非、会員にご協力いただきたい」と呼びかけた。また、事業の実務を担当する尾島朱美研修室長は「ケアの質向上や人材確保などで多くのメリットがある有意義な研修、講習であり、推進協の事業の顔の一つになるようにしっかり準備を進めたい」と述べた。

参加者募集は11月から推進協のホームページで始める。赤枝会長は事務局に対し「事業の実現までは長丁場なので、今後は理事会のたびに進捗状況を報告し、会員の

メリットをさらに具体的に説明してほしい」と指示した。

#### 第3号議案「専門職種の事例研究募集」

今後最も重要と考えられるユニット型施設のケアの質向上を図るため、現場にある優良事例を共有する機会として新設する。具体的には①栄養・口腔②看護③生活支援④介護⑤施設管理——の各分野で、ユニット型施設のケアの質向上に資する事例研究テーマを自由に設定し、指定の様式で来年3月末までに応募する。

推進協の審査部会で分野別の最優秀賞を決めることにしており、その後はオンライン発表会を開催し、毎年度定例で実施を目指す。

#### 第4号議案「その他」

コロナ禍で開催が見合されている故赤枝雄一・前会長(今年4月死去)をしのぶ会について、佐々



新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら今後の事業方針を話し合うオンライン参加者

木亀一郎・総務企画広報委員長が「今後の状況も見ながら、改めて開催を計画してはどうか」と提案した。ほかの理事からも「コロナ禍が落ち着いている今、理事が顔を合わせ、赤枝前会長とお別れる会を是非、招集してほしい」などの意見が出た。今後、執行委員会などで開催に向けて相談する。

#### 報告事項「実地研修再開へ」

事業報告で事務局は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて中止しているユニットケア研修の実地研修について、研修施設と協議しながら計画案を策定し、円滑な再開を目指すとした。再開時期は、現状では来年度の早い段階を想定している。

これについて赤枝会長は「再開は感染対策を徹底し、慎重に混乱のないように進めてほしい。実地研修施設を増やす取り組みも強化してほしい」と述べた。

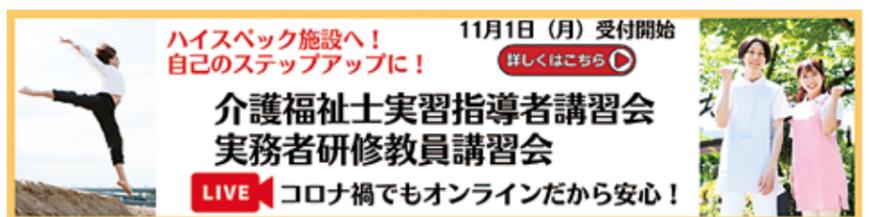
### 北部九州タウンミーティング開催

#### 介護報酬改定の論点 意見交換

推進協は11月2日、北部九州(福岡、佐賀、長崎各県)の会員を対象に今年度の介護報酬改定等に関するタウンミーティングをオンラインで開催し、約50人が参加した。

次回報酬改定に向けた推進協としての組織的な要望に反映させるため、地域ごとに開催している意見交換の一環。初めに今年度改定のあらましと社会保障を取り巻く情勢を報告した藤村二郎・介護保険委員長は、全体で+0.70%となった改定の考えなどを説明したうえで「我々、ユニット型施設として何を望み、地域の利用者さんのためにどう対応していくかが課題であり、次回改定に向けて皆さんの意見を生かしていきたい」と述べた。

事務局が事前に示した今回改定



「介護福祉士実習指導者(座学研修は来年1月実施)」「実務者研修教員(座学研修は同3月実施)」は新型コロナウイルスの感染対策のため、研修はeラーニングと座学(オンライン)を併用して開催。詳細、申し込みは、全国個室ユニット型施設推進協議会のホームページ(https://www.suishinkyo.net/)より上記バナーをクリック。

に関する論点については、参加者が3つのグループに分かれて議論した。全体の意見交換では参加者から「細分化された新規の加算は、ケアプランの内容充実が求められる」という意見が出た。また、科学的介護情報システムへの対応は、自分たちがやっていることが正しいかどうか戸惑いながらもなんとか取り組んでいるなどの意見が聞かれた。また、入居待機者が減っている施設の現状や営業活動の実態、ユニットケア人材育成の課題などについても意見が寄せられた。

推進協は今後も、介護報酬の次回改定に向けて会員との意見交換を重ねていくことにしている。

## キャプション大会 評価

# 利用者が望む環境づくり 可視化で課題・成果を共有



学術代表（日本社会事業大学名誉教授 顔写真）がそれぞれの事例について評価、助言した。

全国個室ユニット型施設推進協議会（推進協、赤枝真紀子会長）は10月18日、第1回キャプション評価大会をオンラインで開催した。個室ユニット型施設の評価について認知症高齢者を支援する視点から現場職員が客観的に評価し、ケアの質向上につなげるのが狙い。参加した北海道から鹿児島まで全国8施設の職員が、各施設内の居室や共用スペースで気付いた環境面の課題や工夫を撮影した写真にコメントをつけたキャプションカードを発表し、講師の児玉桂子・ケアと環境研究学術代表（日本社会事業大学名誉教授 顔写真）がそれぞれの事例について評価、助言した。

### 全国8施設が発表

大会冒頭、赤枝会長は「施設の評価はケアの質に直結する。ユニットの職員みんなで考え、改善につなげることからケア向上の好循環を生み出していきたい」と挨拶した。

キャプション評価法は施設の環境づくりプログラム（6ステップ）のうち主にステップ2の「環境の課題を抽出する」ために行う環境評価手法。施設内の写真についてのコメントを環境支援指針（PEAP）による分類書式に記入したキャプションカードを作り、点検することで課題の整理や共有、改善目標の決定が効果的に進められる。

カードの作り方を説明した児玉代表は、キャプション評価法の利点として▽長所と課題の可視化▽各職員が参加し、感じたことを自由に表現できる▽活発なコミュニケーションで課題を共有できる――などを挙げた。

発表では8施設の職員計10人が作成したキャプションカードを示しながら、事例を紹介した。この

### キャプション発表者

都道府県	施設名	発表者
北海道	地域密着型介護老人福祉施設かつこの杜	宮内香奈子
東京	特別養護老人ホームなぎさ和楽苑	池田めぐみ
神奈川	特別養護老人ホームしょうじゅの里小野	鳥澤 清人
神奈川	特別養護老人ホームしょうじゅの里三保	小出美穂子
神奈川	特別養護老人ホームしょうじゅの里三保	秋山俊太郎
岐阜	特別養護老人ホーム岐南仙寿うれし野	吉田 昌孝
岐阜	特別養護老人ホーム岐南仙寿うれし野	辻 章子
大坂	特別養護老人ホームくみのき苑しらさぎ	阿波野達也
兵庫	特別養護老人ホームおかの花	岡田 岳志
鹿児島	特別養護老人ホーム慈眼寺園	吉田 岬



発表されたキャプションカードの評価、助言を受けて効果や課題を共有するオンライン参加者

うち特別養護老人ホームおかの花（兵庫県）の岡田岳志さんは居室について「個人の持ち物が少ない。（利用者）家と感じていただけでないのでは」というコメントをつけたカードを発表し、「毎日接していると違和感がなくなる環境の課題を、カードを作ることで再認識できた」と述べた。

特別養護老人ホームしょうじゅの里小野（神奈川県）の鳥澤清人さんは、元釣り竿職人の利用者が慣れ親しんだ釣り竿を居室内に効果的に配置、活用した事例を紹介した。児玉代表は「個性ある居室づくりこそ、個室ユニット型施設の強味。利用者が参加した工夫を実現した貴重な例だ」と評価した。亡くなった夫と共に活躍していた時代の写真など、大切なものを目につく場所に置き、時計やテレビの位置を固定して生活のリズムや安心感に配慮した女性の居室を紹介したのは特別養護老人ホームなぎさと楽苑（東京都）の池田めぐみさん。発表した3枚のカードについて児玉代表は「職員が利用者や家族らと協力して築いた環境の好例。高齢者が安心してその人らしく生活できる、環境支援のゴールに近い取り組みだ」と述べた。

### 参加者のコミュニケーションや思考を助ける豊富なツール

ステップ1	ケアと環境への気づきを高める 「認知症高齢者への環境支援指針」（PEAP日本版3）の学習を通じて、ケアと環境への視点や気づきを共有。
ステップ2	環境への課題をとらえて、目標を定める 参加型手法である「キャプション評価法」を用いて施設環境の課題や場所を抽出して、環境づくりの目標を設定。
ステップ3	環境支援の計画を立てる 「暮らし方シミュレーションシート」を用いて理想の暮らし方やケアを描き、それを実現するために「環境支援アイデアシート」を活用して、社会的・物理的・運営的環境について具体的な改善のアイデアを広く出す。
ステップ4	環境支援を実施する 「実施条件の整理シート」を用いて、環境支援のアイデアを整理して、取り組みやすく効果があるものから実施。
ステップ5	新たな環境を暮らしとケアに活かす 新たな環境を積極的に暮らしやケアプランに活用して、認知症のある高齢者の暮らしやケアを変える。
ステップ6	環境支援を振り返る 「環境支援実践シート」により環境支援の取り組みを振り返り、効果や課題の整理。環境支援の効果を検証するために、「利用者の行動変化評価表」等を活用。それらに基づき、次の環境支援につなげる。

キャプションカードの作り方などを記載している書籍はこちら中央法規

<https://www.chuohoki.co.jp/products/welfare/3345/>



元釣り竿職人の個性ある居室を紹介した鳥澤清人さん（特別養護老人ホームしょうじゅの里小野）のキャプションカード

### でやることから取り組みを

初開催の今大会については、推進協のホームページで開催を知り、初めて知ったキャプションカードの作り方から学んで応募した参加者もいた。児玉代表は総評で「皆さん多忙な中で、素敵なキャプションカードがたくさん集まった。高齢者が望む暮らしやケアの実現に向けた環境づくりに、できるところから取り組んでほしい」と話した。



【上】オンラインで開かれた第2回実地研修施設勉強会  
【左】実地研修再開アンケート結果

## 7割が実地研修再開を要望

状況を踏まえた取り組みを

10月7日、推進協は第2回実地研修施設勉強会をオンライン開催し、27施設から約40人が参加した。懸上忠寿事務局長が新規に実地研修施設となった「ニューバード獅子ヶ谷（神奈川県・大和田竜太施設長）」「慈眼寺園（鹿児島県・川島葉留美施設長）」の2施設と、

9月1日に研修室長に就任した尾島朱美氏を紹介した。続いて、懸上事務局長は「政府はワクチン接種証明などの活用を前提に11月頃から県境を越える移動などの行動規制の緩和を容認する方向で検討している」と話し、実地研修再開についてアンケートを実施した。約7割が「十分な感染対策を施設および研修生が共にすれば可能と考える」「実地研修を再開してほしい」と回答した。

一方で再開にあたっては「家族との面会も制限している。まだまだ油断できない不安定な状況だ」「介護福祉士などの実習生は受け入れているが、2回のワクチン接種を済ませていることや実習中はバイトに行かないなどルールを決めている」「受け入れに関するガイドラインがほしい」と言った声があがった。懸上事務局長は「各実地研修施設の状況を踏まえつつ、再開を視野に入れて、取り組みを考えたい」と話した。

### 事務局から

しばらく休刊しておりました推進協ニュースですが、今月から2面、来年からは従来通りの4面で復活することになりました。有意義な情報をお届けできるよう、気持ち新たに取り組んでまいります。皆様からのご意見、ご感想などお待ちしております。（山）

